4床多床室のベッド配置に関する患者の意向調査

キーワード：多床室・4床のベッド配置・満足度

2病棟4階
幸坂光子　安永政江　縄田敏子

Ⅰ．はじめに

患者は入院すると多床室のひとつのベッドでの生活が始まる。日常生活動作の障害や希望が無い限り、その時の空床のベッドのひとつが生活の場となる。

川口らは「4床室の窓側が最も好まれる」[1)]と述べている。当病棟において多床室は2床室が1室で、他は4床室での運営をしている。当科は再入院の患者が約65%を占めており、大半の患者は同じベッドで治療をして退院していく。入院時及び入院中にベッド位置の配慮ができるのではないかと考え、4床ベッドの位置がもたらす生活環境の場を患者がどのように感じているのかを調査してみた。

Ⅱ．目的

病床に対する患者の思いをアンケートで調査し、入院時や入院中に可能な範囲内でベッドの位置を配慮する。

Ⅲ．方法

1．期間

平成20年4月1日～平成20年6月30日

2．対象

自分で意思表示が出来、アンケートに記入出来る当院当病棟入院中の患者22名。

3．調査方法

当院当病棟入院中にアンケート用紙を用いて調査を行った。

アンケート用紙は独自の質問7項目を作成し、選択記入欄と自由記載欄を設けた。

4．倫理的配慮

研究の趣旨、プライバシーの保護、研究参加は個人の自由であり、研究に不参加でも不利益を生じないことを文書で説明し、署名にて同意を得た。

5．分析方法

半構成面接法にて調査を行い、単純集計にて分析を行った。

Ⅲ．結果

対象者の平均年齢は67．7歳（41～88歳）、男性11名、女性11名。初回入院患者11名、再入院患者11名で、アンケート調査時の平均入院期間は21．4日（2～48日）であった。

アンケートの内容を表1に示した。

表1：患者用アンケート

1．今のベッドの位置で満足していますか	満足している ―― ―― ―― 満足していない
2．現在使用しているベッドの位置で満足している理由はどれですか、下の中から選んで下さい（複数回答可）	
①トイレに近い　②出入りがしやすい　③ベッドから上がり降りしやすい	

④明るい　⑤カーテンの内側が広い　⑥テレビが見やすい
⑦特になし　⑧その他（　　）

3．現在使用しているベッドの位置で不満な理由はどれですか、下の中から選んで下さい（複数回答可）

①トイレから遠い　②出入りがしにくい　③ベッドから上がり降りしにくい
④暗い　⑤カーテンの内側が狭い　⑥テレビが見にくい
⑦特になし　⑧その他（　　）

4．入院中同じベッドで過ごし退院していく事をどう思われますか（自由記載）

5．入院期間を通してベッドの位置を変われるなら変えて欲しいと思った事がありますか

はい　・　いいえ

6．ベッドの場所が変われるならどのベッドに変わりたいですか
（↓の①～④の中から選んで下さい）

窓

②	③
①	④

入り口（廊下側）　（　　）

7．今現在自分にとってベッドで過ごす環境で一番重要だと思う事はなんですか

（自由記載）

その他意見があればご自由にお書き下さい。（自由記載）

図１に示すように現在のベッドの位置での満足度は満足・やや満足を併せて 95%と現在のベッドの位置で満足している患者が多かった。

満足している患者のベッドの位置は上記問６にある図の、③の位置に６人、①に５人であった。

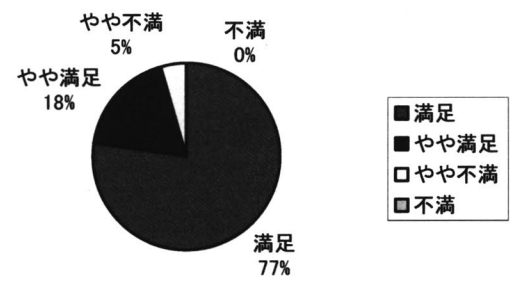

図1：現在のベッドの位置での満足度

次に、現在使用しているベッドでの満足している理由（図２）は「明るい」が 24%で、「ベッドから乗り降りがしやすい」21%、「カーテンの内側が広い」19%の順で多かった。「明るい」と答えた患者のベッドの位置は上記問６の①・③共に４名で、「ベッドから乗り

降りがしやすい」と答えた患者のベッドの位置は①に４名、③に３名であった。現在使用しているベッドでの不満な理由（図３）は特にないが 90％であった。

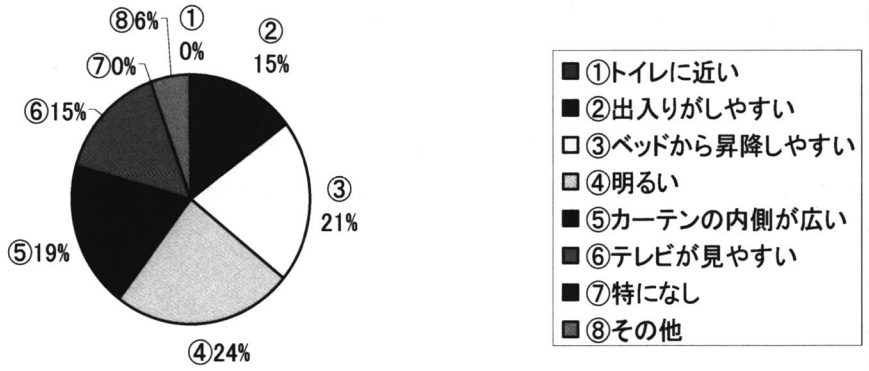

図2：現在のベッドの位置で満足している理由

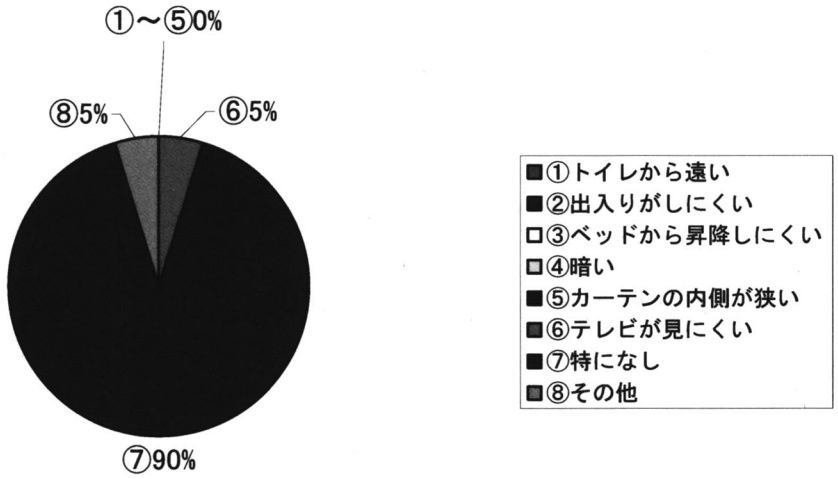

図3：現在のベッドの位置で不満足の理由

入院中同じベッドで過ごす事については、「同じベッドがいい」が９名、「別にかまわない」が５名、「窓側で明るく景色が良ければ最高」が１名、無記入が７名であった。

ベッドの位置の変更希望では 41％が変更希望をしている。変更希望者の 48％の患者が窓側のベッドを希望した（図 4）。

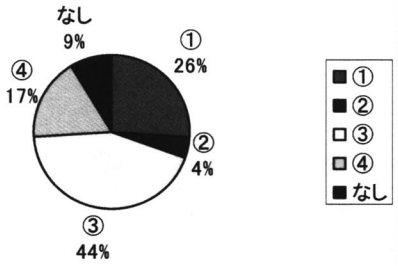

図4：変更したいベッドの希望位置

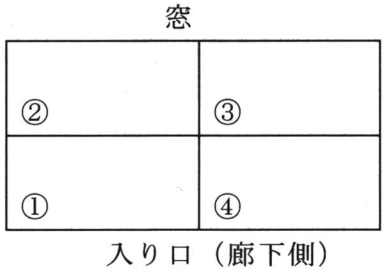

図５：４床室でのベッドの位置

ベッドで過ごす環境で一番重要な事は表２のように様々であった。

表２：今現在自分にとってベッドで過ごす環境で一番重要だと思う事

・ 同居の人に対して好かれるより嫌われることが無いよう留意すること。
・ 一日でも早く正常な日常生活が出来るように頑張るしかない。
・ 運動不足解消、日中のプライバシーの時間確保（読書等）、身の回りを清潔に保つ事。
・ 皆様と仲良く過ごす事が出来るように。
・ 広さ、明るさ、患者間のコミュニケーション。
・ 自分自身。
・ 良く寝る事。　２名
・ いいと思わんにゃいけん。
・ 病気をなおす為とリラックスできる事。
・ 病人だからリラックスが一番。
・ マットが堅いこと（満足している）。
・ 記入なし　10名

Ⅳ．考察

ベッドの位置については、満足・やや満足を併せて95％と現在のベッドの位置で満足している患者が多いということがわかった。これは鈴木らが「(部屋移動の)不満の内容は、部屋移動前については説明についてのものが多かった。部屋移動後については様々であり、ほとんどが大部屋へ移動しての不満であった。」[2)]と述べているように部屋移動については部屋移動前・後共に不満があることがわかる。これはアンケート問５で「同じベッドがいい」と回答している患者が多く、問６に対して59％の患者がベッドの位置を変更したくないと答えていることと一致している。今回のアンケート実施時にベッドの位置の変更があった患者はいなかった。また、現在のベッドの位置で不満足な理由はないと答えた患者が90％であり、このことから、ベッドの位置の変更がなかったことがベッドの位置の満足度につながったと考える。

また、現在使用しているベッドでの満足している理由が「明るい」「ベッドから乗り降りしやすい」「カーテンの内側が広い」と言う順に多く、ベッドの位置ではアンケート問６での①、③のベッドの患者の満足度が大きいということがわかった。これは川口らが「入院経験の豊富な人は、４床室の窓側を嗜好する傾向にある。(途中略）ベッドの位置を好んだ判断理由を聞き取るラダーリングの結果では、好きな理由、嫌いな理由が個人の体験に基づいて混在していることがわかった。つまり、窓側のベッドの位置は、光が入る、景色が見えるなどの良い面がある一方、窓を自由にできる代償として、同室者に気を配りながらカーテンの開閉や、病室に出入りする際には他人の領域を侵して通過していかなければならない気兼ねなどの悪い面もある。ドア側のベッドについては、人の出入りによる騒がしさや、陰気さ、プライバシーの保ちにくさなどの悪い面があがっているが、一方で「出入りが楽で気を遣わなくてすむ」などの意見が長期の入院患者よりあった。」[3)]と述べているように患者の入院経験によって希望するベッドの位置が異なることがわかった。当病棟の４床室では図６に示すようにベッドの位置によって使用できる空間に差があり、公共スペースにもゆとりがある。

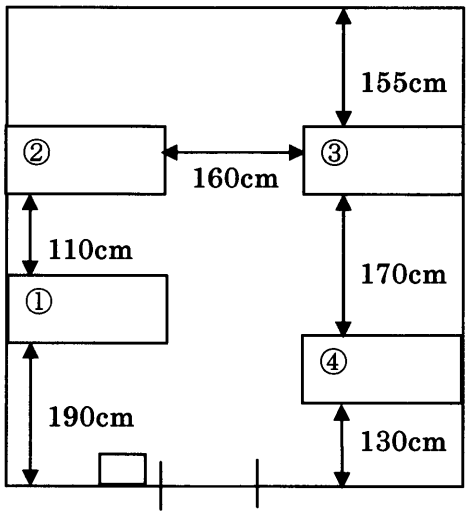

図６：４床室でのベッドの位置・スペース

図５のように変われるなら①、③の位置のベッドに変わりたいと希望する患者が多いということは、①のベッドの位置は洗面所が近く、私的スペースが広いこと。③のベッドの位置は明るい、隣のベッドと離れており公共スペースも使用出来広いことが要因となっている。一方で②、④のベッドが好まれない理由として、②のベッド位置は隣のベッドと接近しており、医療ガスが頭元になるために不便でうるさい。④のベッドの位置ではドアが内側に開く為出入りがしにくいと言ったデメリットが大きいことが考えられる。このことからも当病棟で①、③のベッドの位置が患者から選ばれることがわかる。

表２からは、少数意見ではあったが、１．同室者とトラブルがないように良いコミュニケーションを取って生活したい、２．リラックスして生活したい、の順に患者がベッドで過ごす環境で一番重要だと考えているのは同室者との良いコミュニケーションであることがわかる。これは赤間らの「入院生活の中で自分が感じているストレスを他人に与えないように、自分も入院環境をできるだけストレスの少ないものにしようと配慮している」[4]と述べているように、多床室では様々な生活背景を持った他人が入院すると言うことによって共同生活を余儀なくされることになる。そのため、入院生活においては、同室者と良い関係を築き、リラックスして入院生活を送ることで治療に専念したいと考えている患者が多いことがわかった。

また、川口らは「個室と多床室両方を体験した患者の多くは、部屋が広い、人数が多く楽しい、落ち着くなどの多床室のメリットを強調し、特に４床室を希望する傾向がありました。ベッド位置別に見ると、窓側、ドア側、中央の順で好まれ、６床室の中央が、両側に気を遣う、壁がなく落ち着かない、自分の場所が狭いなどの理由で最もストレスが多いという結果になりました。４床室は、各人がコーナーを所有でき、かつ個室のデメリットである寂しさが軽減されることで、中庸的な選択として好まれたと考えられます。」[5]と述べている。そのことからも当病棟の多床室は４床室が多くよいベッド環境と考える。しかし、ベッドの位置によっては４床室でも患者の不満があることもわかった。

F. ナイティンゲールは「看護とは、新鮮な空気、光、暖かさ、清潔さ、静けさを適切に保ち、食事を適切に選んで管理すること――これらのことすべてを患者の生命力になるべ

く負担をかけないように行うことを意味すべきである。」[6]と述べている。ストレスに弱い現代人が患者になると言うことは、家を離れて集団で過ごす多床室での入院生活となる。治癒過程を援助する上で病床環境の配慮も治療の奏効援助となるので看護の介入が大切であると考える。

V．結論

1．移動空間４床多床室のベッド位置の意向調査を行った。

2．患者は入院生活において同室者との関係を最も気にしている。

3．患者は入院時のベッドの位置から変わりたくないという希望が強い。

4．患者の好むベッドの位置は①、③ベッドで特に窓側の③ベッドの位置を好む患者が多かった。しかし、個人の体験による人との関わりの相違で窓側が絶対的に好まれるとは限らない。

＜引用文献＞

1）3）川口孝泰，勝田仁美：「病床環境理解のための 12 の課題　人間集合と病室空間　課題３：好きなベッド位置，嫌いなベッド位置」，看護教育　36 巻 9 号，P834，1995.

2）鈴木忍，五十嵐明衛，高畑恵子他：「部屋移動に対する患者の不満―部屋移動に関する調査結果から―」，県立会津総合病院雑誌　第 22 巻，P53，2006.

4）赤間由美，小松万喜子，守屋綾子他：「多床室における患者の生活ストレスと関連要因」，日本看護学会論文集　看護総合　31 号，P87，2000.

5）川口孝泰：「「環境調整」のための 10 のヒント　ヒント１　ベッドまわりの空間」，Nursing Today　Vol，21，No，11，P22，2006.

6）ヴィクター・スクレトコヴィッチ原著編：「ナイティンゲール　看護覚え書　決定版」，助川尚子訳，医学書院，P18，1998.

＜参考文献＞

1）川口孝泰著：「ベッドまわりの環境学」，医学書院，1998.

2）ヴィクター・スクレトコヴィッチ原著編：「ナイティンゲール　看護覚え書　決定版」，助川尚子訳，医学書院，1998.